

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1070700214		
法人名	特定非活動法人 お互いさまネットワーク		
事業所名	グループホーム喜楽		
所在地	群馬県館林市北成島町1829-5		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	高崎市八千代町3-9-8		
訪問調査日	令和4年6月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

お年寄りが楽しんで出来る事を見つけてケアポイントとして毎日職員と関わりながら行っています。今までできなかったことが出来るようになったり言葉を忘れかけていた人がたくさんの言葉を発すようになり毎日の関わりが大切で継続する事の大切さが分かりました。コロナ禍の為毎日の食材の買い物も出来ずホームの中での生活になってしまいました。月1回の喜楽の会の飲み会は好きな料理でお酒が飲めると好評です。散歩が気分転換になりやっぱり外はいいね空がきれい山がきれい歩いております。ホーム内の畑で野菜をとり花を植えて季節を知って頂いています。面会は玄関で熱を測りマスク着用し面会できるようになっています。早くコロナが終息して買い物や家族と気兼ねなく外食や自宅に行ける日が来てほしいと思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

『だれもが笑顔で心豊かに生活できる地域社会』を目指して、地域住民との交流の中からニーズを掘り起こし、地域が必要としている活動を展開している法人である。グループホームでも今年度は『きれいきれい運動』を掲げ、利用者と職員と一緒に月に2回、散歩の途中でごみ拾いを行い地域の美化活動を実践している。『その人らしく、ゆったり、いっしょに、楽しく』という開設当初の理念を継続するために、職員会議の前には支援の基本を学習し、職員教育にも力を入れている。コロナ禍だからこそ利用者の利益につながることはないかを話し合い、『ゆとりある介護』を検討し、利用者向き合う時間を意識して『待つ』ことに着目した支援に取り組んだ結果、利用者の自発的な行動やできる事を改めて発見でき、職員も喜びを見いだしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は全体の朝のミーティング後、事業所でお年寄りと唱和している。お年寄りが書いた理念が壁に貼ってあり日誌にも記入されて共有している	グループホームは利用者が『その人らしく、ゆったり、いっしょに、楽しく』過ごす生活の場であることを理念に掲げ、職員は利用者と一緒に確認し、支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時近所の方に挨拶している。近所の方がホームに理髪にきている	散歩の際に地域住民に挨拶したり、月2回は『きれいきれい運動』として、ごみ拾いもしている。理髪をしてくれる地域の人や月2回習字のボランティア、看護実習生の受け入れは継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため時に行えていないが毎月ゴミ拾いは継続してる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため開催出来る時と書面で報告を行い意見を頂いている	コロナ禍のため、例年と同じような運営推進会議の開催はできないが、毎回報告書を作成し、参加メンバーに配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで関係性を築いている。又、事業所の事を理解してもらい、今の一般的な介護の状況や利用者家族の気持ちを理解してもらっている	行政には事業所の様子を報告し、苦情の報告の有無も確認している。介護保険の更新の代行と認定調査の立ち合いも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開設してから日中は鍵はかけていない。身体拘束も行っていない。運営推進会議で報告に確認している	身体拘束適正化委員会を定期で開催し、職員会議や運営推進会議に報告している。玄関の施錠をはじめ、身体拘束の無い支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待の学習を開いている。お年寄りの身体のアザ等気をつけて見ている。職員同士が情報を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関してはあまり知られていないので勉強会が必要。成年後見を利用している利用者がいる。学習会の場を設けたこともあるが再度学習が必要		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に見学を行い、説明をQ&Aを使いながら説明し、理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会の開けなくなり意見の要望書を出し忘れてしまった	家族には面会時やアンケートで要望を確認し誤解の解消に努め、職員で共有している。利用者の要望は「外に行きたい。買い物に行きたい。人の中に入りたい。」等、そのままの言葉を記録に残している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談で意見、提案を職員から聞いている	毎月職員会議を行い、個人面談も行っている。職員用の意見箱も設置し日常的に職員の意見を把握し検討している。調理専門の職員を採用し、利用者との関わりの時間の見直しやリフレッシュ休暇の推進をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の介護雇用管理改善でチェック&アクションで問題点を改善していく取り組みを行っている。資格が取れるように会社が支援している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為外部での研修は難しいがリモートでの研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のためほとんどできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前までにホームで過ごす時間を設けてお互いに確認し合っている。出来る事、出来ないことシートを作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントや面会時様子を伝えながら家族との関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1ヶ月間は出来る事、分からないことシートを使い本人が必要なことを支援するようにしている。言葉掛けを多くしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく、ゆったり、いっしょに、楽しくを合言葉に支えあう支援をしている。 生活リハビリを取り入れ職員と一緒に調理や散歩など行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有し本人の意見を聞きながら希望に沿うようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方は1ヶ月にぐらい面会に来て下さる。カレンダーや年賀状を出している	面会は、決まりを設け実施している。感染対策を取り、葬儀に参列する利用者の支援も行った。新規の利用者は、得意な事や習慣を把握し、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活をしているので自然と気にかけて支え合いを大切にしている。たまには注意されて口論になってしまうが大丈夫と声をかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年末にお互いさまのカレンダーをお送りしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々一緒に生活しているなかで本人の意向など聞いている。6か月に1度ケアプラン作成にアセスメントでセンター方式の「本人の姿と私の気持シート」で意向をきいている。	利用者からの発言を尊重し、そのままを職員は記録し、共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族に生活歴、暮らしの様子をきいて確認している。何気ない事で話して下さる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのケア記録や申し送りでその日の様子を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で電話でのアセスメントですが本人、家族の要望を担当者が聴きケアプラン会議で介護計画を話し合っている	計画の見直しの際に、センター方式を使用してアセスメントを行っている。モニタリングは毎月行っている。見直しを3か月から6か月にしたところ、具体的な変化が明確になり計画が立てやすくなった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌は個別に記録しており職員が記録確認している。申し送りで気づきなど伝えている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院は家族同行の通院ですが本人や家族が様子を伝えれない時は看護師や職員が同行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で散歩などの外出になっているが近所のゴミ拾いは継続している。ボランティアで美容室の方がカットにきてくださっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅でのかかりつけ医を主治医としている。通院できない方は往診の先生をお願いしている	全ての利用者が個別のかかりつけ医に家族の同伴で受診している。必要時は看護師も同伴している。家族の状況等も変化しており、往診医も含め、今後の支援方法が課題と感じている。	利用者や家族の希望、状況の変化を考慮し、課題と捉えている今後の受診方法について検討をしてはいかがか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師がおり相談しお年寄りが安心できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師が付き添い情報を伝えている。面会に行き様子を聞くようにしている。退院にカンファレンスを開いて確認しあっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメントの時に「私の希望」で本人の希望をきき家族に伝えている。重度化や終末期は方針をたて話し合いながら支援している	本人の希望はアセスメントの際に確認しており、家族にも伝えている。希望をもとに話し合いを行い、方針を立て、看取りの支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会で勉強をし、実践できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、夜間想定避難訓練は行っている。消防署立ち合いの訓練の年2回開催している。水害の災害時を近所の建物に避難の練習をした	夜間想定訓練を毎月行っている。水害時の災害を想定し、移動訓練も行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意し「ダメダメ」は使用しない事としている。指示・命令語も使用しないようにしている。プライバシーを損ねないようにしている	今年度のテーマである『待つ』支援を意識したことで、利用者に対する新たな発見もでき、尊重につながっている。利用者間の相性は、そのつど対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、どんなことをしたいか聞き、本人が決められるように働きかけている。今日の予定を確認し伝えている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食べたい物などなるべく希望に添えるようにしている。ほしいものがあるときは優先的に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洋服選びやおしゃれが出来るように目のつくところにおいておく。洗面所に櫛やクリームをおいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お年寄りが負担にならないように出来る事(皮むきや盛り付け)など職員と一緒に準備をしている。味見をしていただいている	昼夜は業者から配達される食材を利用者と一緒にチェックし、皮むきなどをお願いしている。誕生日会は当日に行い「喜楽の会」では酒類も提供し、楽しんでもらっている。飲み物は常に用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせた食事の形態で刻みや食べられるように支援をしている。水分量は職員が把握し少ない人には飲み物を好物に変えて確保している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、就寝時の口腔ケアをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を排泄表を使って失敗しないように支援している。本人がトイレに行きたそうな時はさりげない支援をしている	排泄チェック表を使い、トイレ誘導して支援している。声掛けや誘導はさりげなく行うようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトや10時にきな粉牛乳、ココアを飲んで予防している。便秘のときは薬を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を聞きながら利用し支援しているが、ほとんどは職員がきめている。自分の好きなシャンプーやリンスを使用している人もいる	週2回の入浴を目途にしているが、入浴の希望を聞きながら支援している。着替えの準備などは、利用者の状況に合わせて行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気のいい日には布団を干したり週1回のシーツ交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬作りは職員がおこなっており処方箋用紙で副作用は確認している。新しい薬を処方されたときは様子を伝え合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お年寄りが得意なことなどを中心に力を発揮できるよう支援している。笑顔がでるようにしている。花を育てたり毎月飲み会を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため散歩などの外出になっている	日常的に外に出る機会を持っている。ユニット間を移動したり、散歩に出かけたり、中庭で野菜や果実を育て、楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は外出の機会がないためお金を持つことはない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を頂いた時は本人が返事を書いている。毎日家族と電話連絡をし元気で居ることを確認しあっている方やライン電話を使って話をしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりや換気をよくしている。音には配慮しながら心地いい工夫をしている。年齢的に耳が遠くなり音量が高くなっている	共用空間には日めくりカレンダーをかけている。利用者が書く献立を掲示している。ウッドデッキを利用して洗濯物を干したり、過ごすこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが2つあり共有空間でも一人になれる居場所があり、利用している。ソファに座る場所など思い思い出来るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の表札は入所時自分で書いたものです。自宅で使っていたベットや家具、カレンダーや時計など馴染みのものを置いていた	畳に布団で過ごしたり、家族が持参の花を飾っている利用者もいる。仏壇に毎朝ご飯と水を供えたり、汚れ物を入れるボックスを置いたり、洗ったものを干したりと思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事シートを使いながら自立した生活が出来るよう支援している。ゴミ箱や箒など目の付くところに置きいつでも使えるようにしている。		